

【規格名（和名）】

健康診断結果報告書 HL7FHIR 記述仕様

【規格名（英名）】

The FHIR-based specification of Health checkup result report

【規格の目的（ユースケースを含む）】

本書は医療関連施設間での健康診断結果報告書の相互運用に資することを目的とし、健康診断結果報告書の内容を HL7 FHIR Ver.4.0.1 に基づいた形式で電子的に記述するための規格である。

HL7CDA R2 での記述仕様を定めた「JAHIS 標準 18-007 健康診断結果報告書規格 Ver.2.0」との互換性を維持し、FHIR における Bundle リソースのひとつのタイプである FHIR Document により記述する。そして、文書構成情報 (Composition リソース)、受診者情報 (Patient リソース)、報告書作成者役割情報 (PractitionerRole リソース)、報告書作成組織情報 (Organization リソース)、報告書作成者情報 (Practitioner リソース)、健診実施情報 (Encounter リソース)、保険情報や受診券情報 (Coverage リソース)、保険者情報 (Organization リソース)、健診結果情報 (Observation リソース) から構成される。このうち、健診結果情報は特定健診をはじめとする各種制度に基づく健診結果を記述する検査結果セクションと問診結果セクション、及び、DICOM ファイル、波形ファイル、JPEG ファイル、PDF ファイル、XML ファイル等の添付書類を外部ファイルとして管理する添付書類セクションから構成される。また、健診結果報告書の全ての内容を FHIR リソースで構造的に記述するのではなく、特定健診仕様に従う HL7CDA R2 形式の XML ファイル、および、健康診断結果報告書規格に従う

HL7CDA R2 形式の XML ファイルを、本文書の添付書類として FHIR リソース中に直接含むことも可能にした。

【規格の適応領域】

本仕様書が想定する適用範囲は、

- ・ 特定健康診査（特定健診）
- ・ 特定健診以外の健診
- ・ 広域連合の保健事業における健診
- ・ 労働安全衛生法に基づく事業者健診の一般健診（特殊健診は含まない）
- ・ 人間ドック
- ・ その他の検診

における結果の提供である。

ただし、制度として、健診実施機関が保険者等の制度実施主体に対して電子的に提出する規格を別に定めている場合を除く。

本仕様書には検体検査、生理検査、波形情報、放射線等の画像情報など付帯情報を添付する際の規格が含まれているが、カルテあるいは各種サマリ等の内容に関する規格は含まれていない。問診データは通常健康診断結果報告書では受診者へ提供されないが、特定健診では管理データとなって保管され、人間ドック等としても重要な情報で、電子化され受診者等へ結果報告が可能のように本仕様書でも一般の問診項目も含めて電子的に記述できることとした。また本仕様書が定める健康診断結果報告書の提供手段、管理方法、利用法については別規格などに委ね、本仕様書の範囲ではない。また、それぞれの健診に対して個別に詳細規格が定められている場合はそちらを優先する。

【関連他標準との関係】

既存の「JAHIS 標準 18-007 健康診断結果報告書規格 Ver.2.0」や「特定健診の電子的なデータ標準様式 特定健診情報ファイル仕様説明書 Version3」等を参考に、HL7 FHIR R4

Ver.4.0.1 に基づいて策定した。

【規格の入手方法】

<https://std.jpfhir.jp/> よりダウンロード可能。HELICS 指針に採択された後は、日本医療情報学会標準のサイトからダウンロードできるようにする予定である。

【メンテナンス状況】

日本医療情報学会の NeXEHRs 研究会や標準策定・維持管理部会が関連団体からのメンバーとともに合同 WG を設置して必要に応じてメンテナンスを行う。

【現在の改版状況】

本書が初版である。